

11年目に入つた不当解雇撤回闘争

JAL不当解雇撤回争議団
松本市在住 林 恵美

去る2月17日、国民支援共闘会議総会がweb会議で行われ105名が参加した。

2010年大晦日という見せしめのような解雇強行。総会では10年も闘つてなぜ解決しないのか？組合・争議団はどう総括しているのか？共に闘つてきた支援者から勝利するために鋭く厳しい意見が多く出された。それまでに争議団として10年間のまとめを確認していた。

「総括」はなぜ必要か？新人組合役員の頃、「沈まぬ太陽」の

時代の大先輩から教えられた。船が長い間航行していると船底に貝殻がたくさん付き、正しく舵を切っているつもりでも針路が狂うことがある。その貝殻を落とすために定期的に港へ入って整備する必要がある。それが執行部が行う年一回の総括。方針を実践した成果と課題を分析し更に前進するための方針を見直す。争議は組合活動と共通点もあるが更に運動を内外へ広げる必要がある。後退は許されず前進あるのみ。
(裏面に続く)



JAL愛媛原告を支える会



発行：JAL不当解雇とたかう愛媛原告を支える会
連絡先：愛媛自治労連会館 3F 愛媛労連内
松山市三番町8-10-2 TEL 089-945-4526

私も
応援
します

解決まで、歌って連帯

愛媛合唱団青年部GLC 団長 上田たかゆき



私が愛媛合唱団に入団したての19歳ごろ、JAL原告団のみなさんと初めてお会いしました。

当時は運動の「う」の字も知らず、宣伝行動やデモや集会なども、合唱団の諸先輩方にわけもわからず連れて行かれ歌って帰るというようなモチベーションでした。ですが、うたごえ運動を深く知っていく中で、私たちが普段、当たり前に利用している公共交通が、たくさんの血のにじむような闘いの中で勝ち取ってきたものなんだと知りました。そして、愛媛原告団の林さんや大池さんの「職場へ帰りたい」「あの空へ帰りたい」と涙な

がらに訴える姿に胸をうたれました。

私には歌って連帯する事しかできませんが、それがみなさんの運動にプラスになるのならという思いで、これからもこの争議が解決するまで共に歌っていきたいと思っています。

気が付けば10年というとつもない時間が過ぎていた。この解雇の本質は何なのか？

JALが2010年1月に経営破綻する直前辺りから国議事録で辿ってみた。当時は民主党政権下で野党になつた自民党議員からの追及が鋭い。2兆円を超える負債を抱え破綻したにも関わらず、2010年11月には既に株式の上場準備室が社内で作られ12月には債務超過は解消され史上最高の利益を上げていた。新たな増資など必要ないのに翌3月15日京セラを始めとする8社にだけ127億円が割り当てられた。3月31日に出された決算利益は1700億円。執行役員20名にも増資が割当てられた。まさに「利益相反」ではないかと！ 当時の最高経営責任者・稻盛和夫氏が証言したように経理上解雇の必要性は全くなかつたのである。モノを言う乗務員を狙つた差別解雇であったことが明らかではないか。



2020年12月22日 新婦人野村支部の皆さんと



2021年2月11日森発言抗議集会・坊ちゃん広場



2021年2月6日全労連四国地協女性交流集会

今、現場ではコロナ禍でフライトが激減し収入も激減。最も事欠く切実な実態だ。こんな職場にするために私たちの首を切つたのかと怒髪天を突く。責任を取るべき者は肥え太り、安全に対しても職務を果たしてきたが、も事欠く切実な実態だ。こんな職場にするために私たちの首を切つたのかと怒髪天を突く。責任を取るべき者は肥え太り、安全に対する意識をなくすべきだ。ベテラン乗務員の首を切り、必死に働いている現役は困窮。企業の社会的責任とは？！

11年目に入った不当解雇争議の解決にJAL経営陣は今こそ誠意を尽くすべきだ。